



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

ヨルダン・イスラエル・パレスチナ：紅海死海送水計画

(10日付『ヨルダン・タイムズ』紙)

1. 12月9日、ヨルダン、イスラエルおよびパレスチナの間で、紅海死海送水計画のフェーズ1の実施に関する相互覚書(MOU)が合意された。ヨルダンのナーセル水灌漑相は、歴史的な本合意に至るまで6ヵ月を要したが、本計画は地域の重要な象徴である死海の水位低下の防止にも資するものであると述べた。
2. 本計画では、(1) 淡水化施設をアカバに建設し、(2) 同施設で淡水化した水をアカバおよびイスラエルに供給するためにパイプラインを建設し、(3) 淡水化の過程で分離された塩分が残ったことで塩分濃度が高まった紅海の海水を死海の推移低下を防ぐために死海に流すためのパイプラインを建設する予定である。
3. ナーセル水灌漑相によれば、本計画のフェーズ1で、計8,500万から1億立方メートルの廉価な淡水をヨルダンが獲得することになり、需要の増加に応じて計画を拡張することを予定している。また、1億立方メートルの海水が死海の水位低下を防ぐために供給される。
4. 本計画により、アカバに3,000万立方メートル、およびイスラエルに5,000万立方メートルの淡水がそれぞれ供給されることとなっており、イスラエルには取得原価で同淡水を売却する一方、ヨルダンはイスラエルからヨルダン渓谷の北部で、上記淡水を1立方メートルあたり0.27JD(ヨルダン・ディーナール)で購入する予定である。
5. 同外相によれば、本計画のフェーズ1に関わる総額として約9億米ドルを見込んでおり、一部の経費については海外からの援助で対応する考えである。本計画のフェーズ1は、2014年第3四半期にBOT方式で入札を行う予定である。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799